

ごみ量と経費は、対象範囲を分けて確認する

結果

2024年度のごみ総排出量は災害廃棄物を除くと3,811.3万トンで、前年比2.21%減だった。災害廃棄物を含むと3,971.6万トン、1.16%増になる。含める範囲によって増減の方向が変わる。

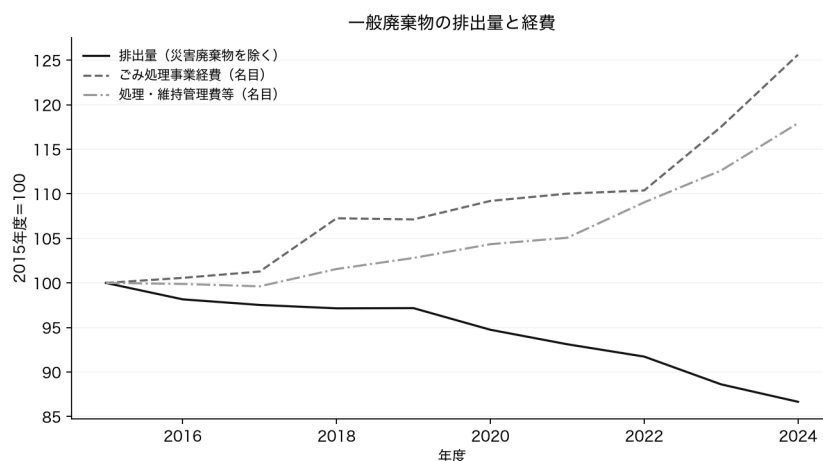
ごみ処理事業経費は2兆4,488.96億円で6.88%増。増加額1,577.38億円の内訳は、建設改良費1,158.89億円増、処理・維持管理費等801.68億円増、その他383.19億円減だった。建設改良費の増加は総増加の73.5%に相当する。

限界

処理・維持管理費等だけでも前年比4.72%増えており、建設費だけの变化ではない。ただし名目経費で、物価、施設更新、委託条件などは調整していない。量が減って費用が増えたことから、非効率になったとは判断できない。量と費用の対象範囲をそろえた処理単価も計算していない。

企業で確認するなら

種類別重量と、回収回数、運搬費、処分費、容器代、臨時回収費を分ける。重量が減っても固定料金や回収頻度が変わらなければ、費用が比例して下がるとは限らない。



排出量と名目経費の推移

出典：環境省日本の廃棄物処理・令和6年度版印刷1・48ページを加工。2026年9月7日確認。環境省の作成・承認ではない。